

2021年度東海大学付属浦安高等学校 学校評価

高校 年度	学校運営							学習指導					クラス指導					生活指導					進路指導		特別活動・課外活動					
	1. 全体的にみて、学校に対して満足している。	2. 教育方針や目標を理解している。	3. 付属ならではのメリットがある。	4. 国際交流に関するプログラムが充実している。	5. 施設・設備等の教育環境が充実している。	6. 危機管理や安全対策が図られている。	7. 学校に対して誇りや愛着がある。	8. 意欲的に学習している。	9. 先生は授業や教材を工夫している。	10. 学力や考える力がついている。	11. 家庭学習や課題(宿題)がきちんとできている。	12. 提出物をきちんと仕上げ、期日を守っている。	13. クラスや学校の一員としての自覚がある。	14. 友だちとの人間関係は良好である。	15. 担任や教科担当の先生との人間関係は良好である。	16. 学校や先生、友だちへの悩みや問題を相談することができる。	17. 学校生活が楽しい。	18. 教室の清掃や整理整頓に努めている。	19. 学校行事に積極的に取り組んでいる。	20. 礼儀や挨拶がきちんとできている。	21. 頭髪・服装等のルールをきちんと守っている。	22. 登下校時の公共の場でのマナーを守っている。	23. 施設・設備・備品等を大切に使用している。	24. 学校のきまりをきちんと守っている。	25. 進路指導や面談は適切に行われている。	26. 行事や配布物から進路に関する情報を十分に得ている。	27. 委員会やクラス係の仕事にきちんと取り組んでいる。	28. 部活動に意欲的に参加している。	29. 部活動における先生・コーチの指導は適切である。	30. ボランティア活動に取り組む機会がある。または参加した。
2017	2.6	2.6	3.2	2.4	2.6	2.5	2.4	2.6	2.6	2.6	2.6	3.0	3.0	3.3	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	3.2	3.2	3.4	3.4	3.2	3.0	2.9	3.2	3.1	2.6	2.3
2018	2.6	2.6	3.3	2.5	2.7	2.7	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	3.0	3.0	3.3	3.1	3.0	3.1	3.0	3.1	3.2	3.2	3.4	3.3	3.2	3.0	3.0	3.2	3.1	2.8	2.4
2019	2.6	2.6	3.2	2.5	2.7	2.6	2.4	2.6	2.6	2.6	2.7	3.1	3.0	3.3	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.4	3.2	3.0	2.9	3.2	3.1	2.7	2.2
2020	2.8	2.8	3.5	2.4	2.8	2.8	2.6	2.8	2.8	2.8	2.9	3.3	3.3	3.5	3.3	3.1	3.2	3.1	3.2	3.4	3.4	3.6	3.6	3.4	3.1	3.1	3.3	3.3	3.2	2.1
2021	2.9	2.9	3.5	2.4	2.9	2.9	2.6	2.8	2.9	2.8	2.9	3.2	3.3	3.5	3.2	3.2	3.2	3.2	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.5	3.2	3.2	3.4	3.3	3.2	2.2
「国際交流に関するプログラム」を除き、どの項目においてもこの5年間で最高の評価がでていることがわかる。学び方スタンダードの浸透や、丁寧な指導の成果が確実に生徒に伝わってきている。今年度もコロナウイルス感染症における変則的な対応が多くあったが、危機管理や安全対策に対しての評価も上がっており、適切に生徒の安全対策が図られていたのと思う。今後は「学校に対して誇りや愛着がある」生徒を増やしていくことが目標になる。今の指導を継続しながらより改善していくことで確実に生徒の意識も変わってくるだろう。							どの項目もこの5年間の中では、高い数字が出ている。とくに教材の工夫や家庭学習の取り組みで高い評価が出ている。タブレット環境が整い始めてきた成果と言える。提出物に対する意識が昨年度より唯一下回った。原因がICT教材にあるのか、異なるところに問題点があるのかを見極めていく必要がある。					どの項目においてもこの5年間の中では、高い評価が出ている。各教員がきめ細やかな指導を行い、生徒との信頼関係が築けている。友人関係においても良好に過ごすことができた生徒が多かったようだ。引き続き、個性と集団意識の調和した学級運営を継続できるよう足並みをそろえた学年や中高を越えた指導を目指すべきである。					前年度と比較しても生活指導への理解度が深まっていることがわかる。礼儀や挨拶がきちんとできていると感じている生徒が増えていることは、内側の人格教育に成果が上がっていることが考えられる。昨年度も提起したが、「教員の前だけルールを守ればよい」という考えから、「いかなるときもルールは守るべし」という考えに生徒の意識が向上していることは喜ばしいことであるし、そのような生徒が増えていくことで、より魅力的な学校に変化していくと考えている。					過去5年間で最高の評価となっている。コロナ禍で面談の確保が難しくなった中、丁寧な指導が行われていたことがわかる。引き続き、情報の提供に努め、充実感のある進路指導を進めてほしい。		今年度は、コロナ禍の影響により、昨年度並みに特別活動の機会が減っていたが、生徒会活動や部活動に対しても高い満足が得られている。働き方改革との両立が難しい部分とされてきたが、生徒も教員も「持続可能な部活動」への転換を進めていく中で、相対的に生徒の満足度が向上している。今後もこの流れを継続させ、時代に合った活動に転換していくべきである。						

2021年度東海大学付属浦安高等学校中部 学校評価

中等部	学校運営							学習指導					クラス指導					生活指導				進路指導		特別活動・課外活動						
	1. 全体的にみて、学校に対して満足している。	2. 教育方針や目標を理解している。	3. 付属ならではのメリットがある。	4. 国際交流に関するプログラムが充実している。	5. 施設・設備等の教育環境が充実している。	6. 危機管理や安全対策が図られている。	7. 学校に対して誇りや愛着がある。	8. 意欲的に学習している。	9. 先生は授業や教材を工夫している。	10. 学力や考える力がついている。	11. 家庭学習や課題(宿題)がきちんとできている。	12. 提出物をきちんと仕上げ、期日を守っている。	13. クラスや学校の一員としての自覚がある。	14. 友だちとの人間関係は良好である。	15. 担任や教科担当の先生との人間関係は良好である。	16. 学校や先生、友だちに悩みや問題を相談することができる。	17. 学校生活が楽しい。	18. 教室の清掃や整理整頓に努めている。	19. 学校行事に積極的に取り組んでいる。	20. 礼儀や挨拶がきちんとできている。	21. 頭髪・服装等のルールをきちんと守っている。	22. 登下校時に公共の場でのマナーを守っている。	23. 施設・設備・備品等を大切に使用している。	24. 学校のきまりをきちんと守っている。	25. 進路指導や面談は適切に行われている。	26. 行事や配布物から進路に関する情報を十分に得ている。	27. 委員会やクラス係の仕事にきちんと取り組んでいる。	28. 部活動に意欲的に参加している。	29. 部活動における先生・コーチの指導は適切である。	30. ボランティア活動に取り組む機会がある。または参加した。
2017	2.7	2.7	3.3	2.7	2.8	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7	2.7	3.0	3.1	3.4	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.0	3.0	3.2	3.0	2.8	2.3
2018	3.1	3.0	3.5	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	3.1	3.0	2.7	3.0	3.4	3.5	3.2	3.0	3.4	3.1	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.3	3.1	3.1	3.4	3.2	2.9	2.4
2019	3.1	3.1	3.5	3.2	3.2	3.1	2.9	2.9	3.2	3.1	2.9	3.0	3.4	3.5	3.2	3.0	3.3	3.2	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.2	3.2	3.4	3.3	3.1	2.4
2020	3.3	3.2	3.7	3.2	3.3	3.3	3.0	3.0	3.3	3.3	3.0	3.0	3.4	3.6	3.4	3.1	3.4	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.3	3.2	3.5	3.4	3.3	2.5
2021	3.4	3.3	3.7	3.3	3.5	3.4	3.2	3.2	3.5	3.4	3.3	3.2	3.5	3.6	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4	3.6	3.6	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4	3.6	3.4	3.4	2.9
どの項目も前年度以上が現状維持をしており、全体的な学校運営に関する評価が大きく向上した。施設、教育環境の満足度が大きく向上しているのは、タブレット環境が整備され、時代の流れに適応したオンライン学習環境を用意できた点にあると考える。学校に対しての誇りや愛着を感じる生徒が増えている点が喜ばしいことである。この項目が伸びてくることが、校外での生徒の行動にも影響し、それが学校の魅力や募集にも直結してくるので来年度も注視していく必要がある。							どの項目も前年度以上が維持をしている。とくに教材の工夫や家庭学習への取り組みが評価できると感じた生徒が昨年度と比較しても大幅に上昇している。各授業で創意工夫をし、思考型の授業への転換が進んでいると同時に、適切にタブレット環境を生かした教育活動が展開されていることがわかる。学力の向上を生徒が実感することが、授業の雰囲気や教員の授業スキルの向上にもつながるという好循環をおこしていく。この循環をさらに前に進めていくことが重要である。					学校やクラスでの満足度が年々上昇しており、良好な人間関係を築ける生徒が増えている。悩みを相談できる環境が整備されている点も生徒が安心して登校できる要因になっている。クラスや学校の一員としての自覚があると感じる生徒もこの5年間の中で、最高となっている。より主体的な活動を展開していくことで、より一層成果を上げてほしい。					ここ数年生活指導においては、大きな変化がみられなかったが、今年度はどの項目も大きく評価が上昇した。高いレベルで生活指導が徹底出来てきたと同時に、内面の人格教育の定着が進んでいることの表れである。引き続き、学び方スタンダードの定着と浸透を進めていくべきである。				昨年度から大きく上昇している。大学付属のメリットを中等部の時期から感じている生徒が増えていることがわかる。引き続き、中高連携を通じて充実感のある進路指導をしていく必要がある。		ボランティア活動に対しての取り組みに大きな向上が見られる。中等部ではSDGsの推進が早くから進んでおり、そのことが生徒の積極的な活動に繋がっているのではないだろうか。コロナ禍の影響により、昨年度並みに特別活動の機会が減っていたが、生徒会活動や部活動に対しても高い満足が得られている。働き方改革の転換を進めていく中でも、相対的に生徒の満足度が向上している。今後もこの流れを継続させ、時代に合った活動に転換していくべきである。							